

## 1 実態調査の概要

### (1) 調査対象者

調査対象者は、次に掲げる者である。

- イ 平成17年4月1日現在において、果実酒（ぶどうを原料とするものに限る。以下同じ。）の製造免許（試験製造及び期限付免許を除く。）を有する者
- ロ イに掲げる者と資本関係のある果実酒の販売担当会社

### (2) 事業年度

平成16事業年度とは、法人については、平成17年4月1日直近終了事業年度（1事業年度が6か月の場合は2事業年度の合計）をいい、個人については、平成16年1月1日から同年12月31日までをいう。

※ これまで隔年で調査を実施してきたが、平成16事業年度分から毎年実施とした。

### (3) 調査結果の集計

次の調査項目の集計に当たっては、製造者と資本関係のある果実酒の販売担当会社がある場合には、その販売担当会社分を計上した。

- イ 果実酒製造業の専業割合
- ロ 果実酒の販売数量
- ハ 果実酒製造業の収益状況及び利益状況

## 2 調査結果の概要

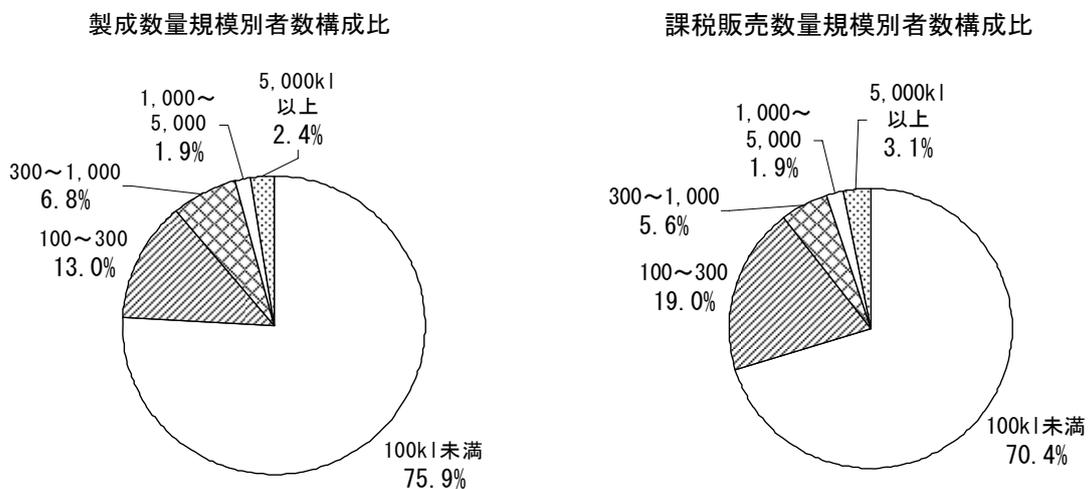
### (1) 製造業者数

平成16事業年度の果実酒製造業者実態調査の回答者は166者（製造業者162者販売担当会社4者）であり、製造業者のうち156者（96.3%）が中小企業（※1）である。

企業数を規模別にみると、製成数量及び販売数量とも100kl未満の者が70%以上を占めている（図表1）。

（※1） 資本金3億円以下の法人若しくは従業員300人以下の法人又は個人をいう。

図表1



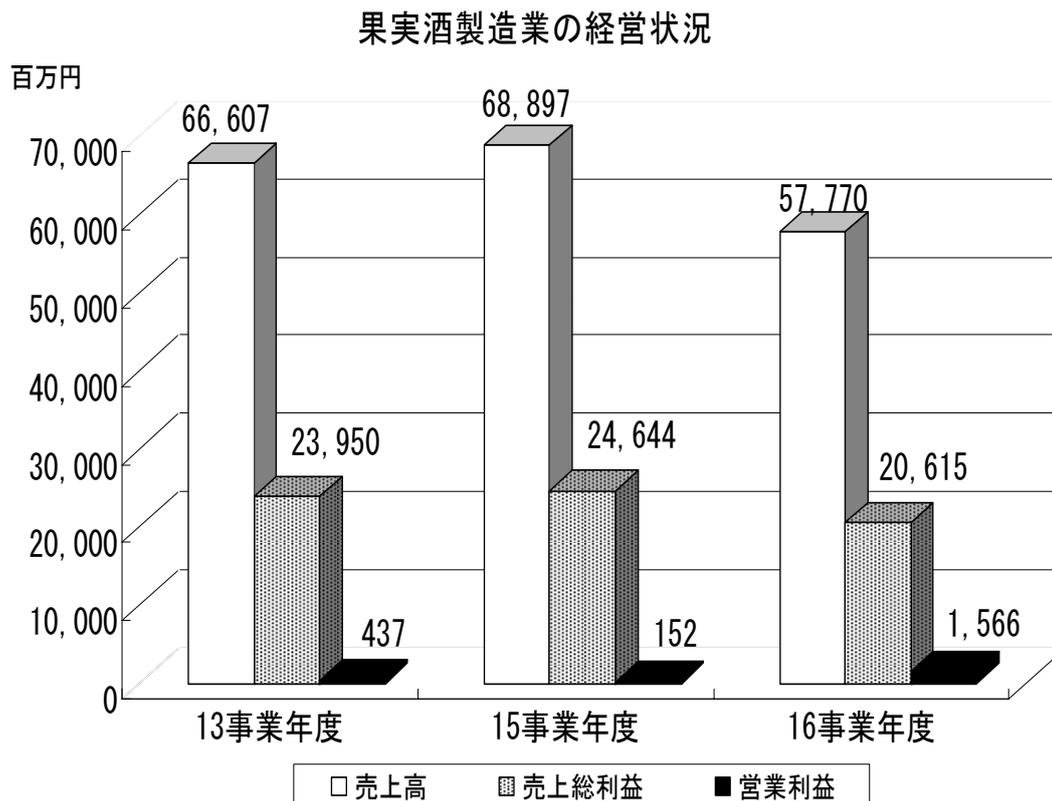
（注） 製成数量については製造業者分、課税販売数量については、製造業者と資本関係のある果実酒の販売担当会社がある場合には、その販売担当会社分を計上した。

(2) 業績の推移

平成16事業年度の果実酒製造業の売上高は57,770百万円で、平成15事業年度68,897百万円に比べ11,127百万円（16.2%）減少しているが、営業利益は1,566百万円で、平成15事業年度152百万円に比べ1,414百万円（930.3%）増加している（図表2）。

なお、売上高の65.4%を大手5者（各事業年度における製成数量の上位5者をいう。以下同じ。）が占めている。

図表2



（単位：百万円、%）

区 分	売 上 高	売上総利益	営 業 利 益
13事業年度	66,607	23,950	437
15事業年度	68,897	24,644	152
16事業年度	57,770	20,615	1,566
対前年比	83.8	83.7	1030.3

（注）1 その他の事業にかかる計数は含まれていない。

2 製造業者と資本関係のある果実酒の販売担当会社がある場合には、その販売担当会社分を計上した。

### (3) 営業利益等

#### イ 営業利益

平成16事業年度の果実酒製造業の営業利益について、欠損・低収益企業は96者（59.3%）で、平成15事業年度83者に比べ13者（8.1ポイント）増加している。欠損企業は67者（41.4%）で、平成15事業年度61者に比べ6者（3.7ポイント）増加、また、低収益企業（※2）は29者（17.9%）で、平成15事業年度22者に比べ7者（4.3ポイント）増加している。

（※2）営業利益が0円から50万円未満の企業をいう。以下同じ。

#### 果実酒製造業の営業利益

（単位：者、%）

区 分	全	企 業 数		
		欠 損	・ 低 収 益	企 業 数
			欠 損 企 業 数	低 収 益 企 業 数
13 事業年度	(100) 1 6 9	(50.3) 8 5	(33.1) 5 6	(17.2) 2 9
15 事業年度	(100) 1 6 2	(51.2) 8 3	(37.7) 6 1	(13.6) 2 2
16 事業年度	(100) 1 6 2	(59.3) 9 6	(41.4) 6 7	(17.9) 2 9

（注）1 カッコ書は、構成比である。

2 その他の事業にかかる計数は含まれていない。

3 製造業者と資本関係のある果実酒の販売担当会社がある場合には、その販売担当会社分を計上した。

#### ロ 税引前利益

平成16事業年度のその他の事業を含めた果実酒製造業者の税引前利益について、欠損・低収益企業は75者（46.3%）で、平成15事業年度69者に比べ6者（3.7ポイント）増加している。欠損企業は52者（32.1%）で、平成15事業年度52者に比べ1者（0.6ポイント）増加、また、低収益企業は23者（14.2%）で、平成15事業年度18者に比べ5者（3.1ポイント）増加している。

#### 果実酒製造業者の税引前利益

（単位：者、%）

区 分	全	企 業 数		
		欠 損	・ 低 収 益	企 業 数
			欠 損 企 業 数	低 収 益 企 業 数
13 事業年度	(100) 1 6 9	(46.2) 7 8	(29.0) 4 9	(17.2) 2 9
15 事業年度	(100) 1 6 2	(42.6) 6 9	(31.5) 5 1	(11.1) 1 8
16 事業年度	(100) 1 6 2	(46.3) 7 5	(32.1) 5 2	(14.2) 2 3

（注）1 カッコ書は、構成比である。

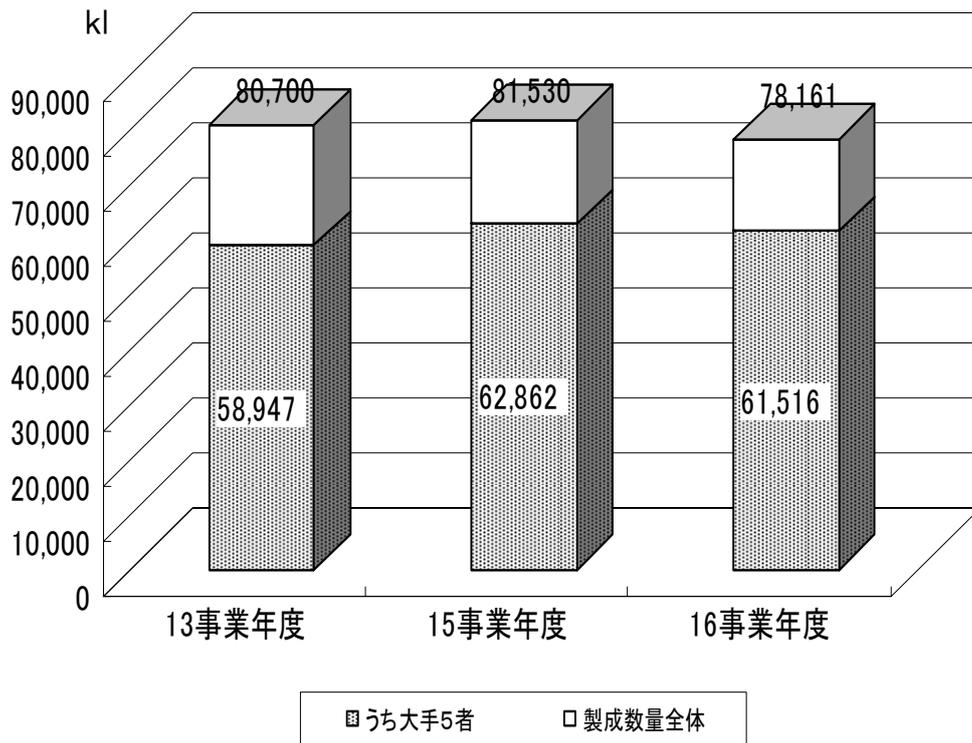
2 製造業者と資本関係のある果実酒の販売担当会社がある場合には、その販売担当会社分を計上した。

(4) 製成数量

平成16事業年度の製成数量は、78,161klであり、平成15事業年度81,530klに比べ3,369kl（4.1%）減少している。大手5者のシェアは78.7%であり、平成15事業年度77.1%に比べ1.6ポイント増加している（図表3）。

図表3

果実酒の製成数量



(単位：kl、%)

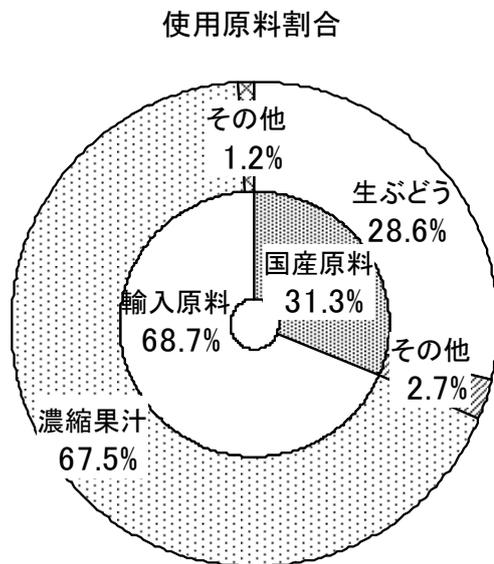
区分	果実酒製造業者	
	大手5者	対前年比
13事業年度	80,700 (73.0)	58,947
15事業年度	81,530 (77.1)	62,862
16事業年度	78,161 (78.7)	61,516
対前年比	95.9	97.9

(注) カッコ書は、構成比である。

(5) 原料の使用状況

平成16事業年度の製成数量に対する原料の使用状況について、国産原料の使用割合は31.3%で、そのうち生ぶどうが28.6%を占めている。輸入原料の使用割合は国産原料の約2倍の68.7%で、そのうち濃縮果汁が67.5%を占めている（図表4）。

図表4



(単位：k l、%)

区 分		平成16事業年度		
		製成数量等	構 成 比	
製 成	国産原料	24,464	31.3	83.2
	生ぶどう	22,354	28.6	
	その他	2,110	2.7	
	輸入原料	53,697	68.7	
	濃縮果汁	52,759	67.5	
	その他	938	1.2	
計	78,161	100.0		
バルクワイン		15,817		16.8
合 計		93,978		100.0